

# 令和3年度全国学力・学習状況調査の結果にみる 本校生徒の現状と課題

## 1. 教科ごとの結果分析

### 国語

平均正答率は全国と比較すると+0.4ポイントという結果となった。

領域別で正答率を見てみると、「書くこと」では、+3.0ポイントとなった。特に、「書いた文章を互いに読みあい、文章の構成の工夫を考える」趣旨の問題では、8ポイント以上全国平均を上回った。これは、単元末の言語活動やふりかえりを記述する活動の成果と言える。また、記述問題に対する正答率も全国平均より3ポイント以上高く、あわせて無答率も低いことから、最後まであきらめずに答えようとする姿勢が身についているといえる。

一方で、「話す・聞く」領域においては、-2.3ポイントとなった。特に「質問の意図を捉える」趣旨の問題の正答率が悪く。全国平均より-3.8ポイントとなっている。普段の授業から、相手意識をもって発言したり、それを聞いたりすることを1人1人が心がけられるようにしていく必要がある。

### 数学

全国平均より6.8ポイント上回り、全体的によくできていた。しかし領域ごとに見ると、関数では全国との差が2.8ポイントしかなかった。確認プログラム等でも関数の正答率が低いことが多い学年であり、今後力を入れて復習していきたい。

観点別に見ると、見方・考え方が最も全国との差が小さく5.5ポイントにとどまった。データの数値を利用し、数学的な表現を使って説明する問題では、無回答が17.9%とかなり多いことがわかった。

自分の考えを数学でつかう表現を使って説明することを授業で取り入れていきたい。

## 2. 質問紙調査から見えてきた本校生徒の課題

### ○日常生活について

Q.「朝食は毎日食べていますか」

「食べている」・「どちらかと言えば食べている」が96.7%

→府91.7%、全国92.8%と比べても非常に高く、9割以上の生徒が朝食を食べている。

Q.「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」

「起きている」・「どちらかと言えば起きている」が91.4%

→府91.6%、全国92.7%と、少し下回っているが9割以上の生徒が同じ時間に起きている。

Q.「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」

「寝ている」・「どちらかと言えば寝ている」が85.4%

→府78.6%、全国79.8%に比べても非常に高い。

◎基本的な生活習慣は京都府、全国と比べても身についている。しかし、「起きる時間」に対して、「寝る時間」にバラつきがある生徒は一定数見られた。

- Q.「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」  
「きちんと守っている」が19.2% →府27.9%、全国30.9%と非常に少ない。  
「あまり守っていない」・「守っていない」が13.2% →府9.0%、全国8.1%  
→家での約束はあるにも関わらず、約束を守っていない生徒が多く見受けられる。
- Q.「普段（月曜～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（CPゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」  
「4時間以上」が16.6% →府22.5%、全国16.7と大きな差は見られないが、2割弱の生徒が4時間以上ゲームをしている。  
「2時間以上、3時間より少ない」が33.1% →府23.6%、全国24.7%  
→長時間する生徒は少ないが、1日当たりゲームを2時間程度する生徒は66.3%いる。  
さらに、「全くしない」と答えた生徒も4.0%と、府、全国に比べると少なかった。

◎まず、スマートフォンやゲーム機を持っていない生徒が3.3%と非常に低く、スマホなどは生徒に深く浸透しているように思われる。その中で問題は「約束を守っていない」ということ。ゲームやスマホの使用時間と比例して、家庭学習の時間が失われているように思われる。

## ○学習面について

- Q.「学校の授業時間以外に普段（月曜～金曜）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」  
「3時間以上」が18.5% →府13.1%、全国12.3%  
「2時間以上、3時間より少ない」が37.1% →府26.5%、全国29.5%  
→平日の学習時間が「2時間以上学習している」という生徒が5割以上おり、高い学習への意識が読み取れる。これは他と比べてもとても高い数値である。
- Q.「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」  
「3時間以上、4時間より少ない」が11.9% →府12.5%、全国16.6%  
「2時間以上、3時間より少ない」が21.2% →府21.5%、全国26.7%  
→土日の学習時間は他と比べると、少し少ないように感じられる。
- Q.「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）」  
「教わっていない」が21.2% →府33.0%、全国36.4%  
「学校より進んだ内容・分からなかった内容を教えてもらっている」が43.7% →府29.5%、全国30%  
→他と比べると圧倒的に学習塾や家庭教師にかかっている生徒が多い。全体の8割の生徒が教わっている。（府は7割程度、全国は6割強程度）

◎一見、家庭での学習時間が多いうように思われるが、それは学習塾や家庭教師にかかっているためだと考えられる。その結果、土日などは学習時間が短くなっている。今回の結果から、塾などの勉強は積極的に行っているのかもしれないが、自分に必要なことを考えて取り組む、「家庭学習」が定着しているとは、一概に言えないのかもしれない。学校評価アンケートにおいても同様のことが見て取れた。

Q.「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」

「当てはまる」・「どちらかと言えば、当てはまる」が79.4% →府73.1%、全国74.7%

→高い数値を示しており、違う意見について考えることは楽しいと思っている生徒が多い。

Q.「友達と協力するのは楽しいと思いますか」

「当てはまる」が72.8% →府65.2%、全国65.8%

→約7割以上の生徒が「楽しい」と思っており、他と比べて高い数値を示している。

◎「学習面以外」とも読み取れる質問であるが、違う意見について考えたり、他者と協働したりすることを楽しいと感じる生徒が多い。このことから学習面でも、協働学習や意見交流を積極的に取り入れていくことが効果的だと考える。

## ○生徒について

Q.「自分にはよいところがありますか」

「当てはまる」・「どちらかと言えば、当てはまる」が84.1% →府74.6%、全国76.2%

→8割以上の生徒が「よいところがある」と回答している。自己肯定感は京都府や全国を上回っている。

しかし、「当てはまらない」と回答している生徒も6.0%いる。

Q.「将来の夢や目標を持っていますか」

「当てはまる」・「どちらかと言えば、当てはまる」が73.5% →府65.5%、全国68.6%

→京都府や全国に比べ、夢や目標を持っている生徒は多い。全体の7割を超えており。

Q.「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」

「どちらかと言えば、当てはまらない」が33.8% →府30.2%、全国28.3%

→失敗を恐れて挑戦しない生徒の割合が、京都府や全国に比べて高くなっている。

◎これらの回答から、多くの生徒は自己肯定感が高く、夢や目標を持っていることが分かる。一方、自己肯定感が低く、目標を持っていない生徒もあり、そうした生徒にこそ目を向けなければならない。また、「難しいことには挑戦しない」と回答している生徒の割合が京都府や全国に比べると高くなっている。これは教員が生徒と接している中で感じている課題と一致しており、この部分をどのように上げていくかが、大きな課題である。

## ○ I C Tの活用について

Q.「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」

「月1回未満」が58.3%→府33.6%, 全国36.8%

→京都府や全国に比べると、ICTの活用率は低い傾向にある。

Q.「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」

「役に立つと思う」が66.9%→府61.0%, 全国60.4%

→ICTが学習の中で役に立つと感じている生徒は、京都府や全国と比べても多い。

◎生徒は、ICT機器が学習に役に立つと考えている。しかし、使用頻度は「月1回未満」と回答している生徒が多く見られた。ただ、この結果は5月27日時点なので、現在はもう少し高い頻度でICT機器を使用していると考えられる。大切なのは生徒が「学習の役に立つ」と考えていることである。「どちらかと言えば、役に立つ」と回答している生徒を含めると9割以上の生徒が「役に立つ」と回答している。効果的に授業や家庭学習に活用していくことで、学習意欲を高めることができると考える。

## 3. 調査結果をふまえて

### ①授業の改善

生徒の知的好奇心をくすぐるような、学習意欲を引き立たせる課題を設定し、「なぜ」という感覚を大事にし、課題解決能力を育てていきたい。基本的な課題の定着や発展課題を設けるなど、個別に応じた課題設定も行いたい。

アンケートからも、協働的な学習に対して意欲的な姿勢が見られる。個人で考える時間、グループで考える時間のメリハリをつけながら、協働的な学びを導入していく。お互いの考えを共有しながら、学習に取り組ませ、自分たちで課題を解決できるように方向付けていきたい。

### ② I C Tの活用

学習の効果をあげるために、今後も授業でICTを活用していきたい。アンケートからも「ICTは勉強の役に立つ」と回答している生徒が多くいる。意見の共有や、調べ学習など使い方は様々なので、効果的に取り入れていきたい。

現在、持ち帰りを実施しているが、家庭での使用はなかなか定着していないように思われる。意図的にタブレットを使用した課題を出したり、ミライシードを活用した課題を出したりして、さまざまな工夫を凝らし「タブレットでの家庭学習」も定着させていきたい。

### ③日常生活において

自己肯定感が高い生徒、夢や目標を持っている生徒は8割程度いるが、その裏には自己肯定感が低く、夢や目標を持っていない生徒が2割いる。アンケートの結果からできていることに目がいきがちですが、「当てはまらない」と回答している生徒が必ずいる。こうした生徒がいるという意識で日々の目配りや声かけを行っていきたい。